

「附属」が取れて
改革もスピードアップ

最近、長崎大学病院に行ったことはありますか？二〇〇五年から段階的に改修工事をしており、その変わりようは、久しぶりに足を運んだ人の多くがびっくりするほど。このプロジェクトは十年計画で、現在全体のほぼ四分の三が仕上がりました。今年からは最終段階の「新中央診療棟」の工事に着手、二〇一六年の完成を目指します。

建物だけではありません。外来の診療システムや病室、医療従事者が働く場としての環境も、ここ数年で急速に変化しているのです。中心となって進めてきた河野病院長にお話を聞きました。

「やはり一番大きいのは、組織体系が変わったことでしょう。これまでは長崎大学医学部附属病院、歯学部附属病院だったのが、「附属」ではない、独立した大学病院単体の部局になりました。意思決定も速いし予算も見える。大胆な改革もやりやすい。全国の大学病院のなかでも先進的な試みです」。

かなり注目されているようですね。「本来、長崎大学医学部は一五〇年以上の日本一古い歴史と伝統があります。これにプラスして個性を際立たせること。医学を志す学生たちが、医学の中でも特に何を指すかとなったとき、強み

長崎で医療を学ぶ

それは医療を通じて

世界へ貢献するということ」と



河野 茂

長崎大学理事・病院長

1950年生まれ。長崎大学医学部卒業。長崎大学医学部教授、医学部長を経て2009年4月より現職。専門は呼吸器内科学。

がはっきりしている方が将来の道を選びやすいでしょう。うちの場合、特に被ばく医療と感染症に強いということ。これを具体的に大学病院の中に取り込み、加えて高度な救急医療にも特化した「国際医療センター」が二〇一一年に完成しました。専門性をはっきりさせることで、優秀な人材が集まり、学びの質が高くなるのです。先の震災のときもすぐに被災地へ

駆けつけ、今も継続的な支援をしているのは、災害医療をやりたいという若い人が多く、また、病院のサポートが可能だったから。被ばく医療にしても、チェルノブイリ原発事故の研究ネットワークが今の日本に役立っています」。

最近日本の将来を悲観する若者も多くなって、ちよつと元気がないようで…。「いや、だからこそ私は声を大に



2008年に完成
病棟・診療棟

2010年に完成
外来・研究棟(一期工事)

2011年に完成
国際医療センター

2012年に完成
外来・研究棟(二期工事)

2016年に完成予定
新中央診療棟

玄関

コリドー

駐車場

完成予想図CG

長崎大学病院
長崎市坂本1丁目7-1
TEL.095-819-7200
http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/

特集2 進化する 長崎大学病院

して言いたいですね。少子高齢化の二十一世紀の成長産業は、医療なのです。そして長大は、原爆の廃墟のなかから立ち上がって復興してきたタフな大学。素晴らしい先輩方も多く、熱帯医学研究所をはじめとする、世界に貢献できる開かれた場があります。「病気を治す」というイメージだけでなく、医療を通して世界と競い合い、世界へ貢献するという広がりを持つてほしいですね」。

ここで学び、ここで働く若い力に期待したいですね。今、病院全体で働いている方は何名くらいですか？

「八六二床のベッド数で、看護師は八六〇名、医師五二〇名。そのほか、技師や医療事務など関連スタッフを合わせると、二五〇〇名が働いています」。

そんなに！しかもベッド数と看護師さんの数がほぼ同じなんです。「それでも足りないくらいですよ。年々、入院患者数や手術件数も伸びています。だからこそ、魅力的で働きやすい職場環境を整えていくのは大切なことです。働く人の幸せと笑顔は、患者さんにも確実に伝わっていくものです」。

高度医療の拠点
新中央診療棟

さて、これから三年間で最後の

仕上げの「新中央診療棟」が出来るとお聞きしています。これはどんなものになりそうですか？

「まずこれまで十五あった手術室が十九になります。ICU(集中治療室)の病床も二十床に増えます。検査室にも最先端の機器を配備します。そして屋上にはヘリポート」。

離島などからも患者を運ばますね。

「もちろん地域医療にも貢献できますが、一番大きいのは、臓器などの移植医療を円滑に行えるようになること。臨床研究センターなど、臨床研究や教育もトップレベルのものを展開していきます」。

高度医療の拠点完成が待ち遠しいですね。ではこれまでの七年間で長崎大学病院の何がどのように新しく変わったか、テーマ別にご紹介しましょう。



手術室も増えます。

移転した新しい歯科の診療フロア。



POINT①
レイアウトが
変わった!

統一すること 患者主体の体制に

これまでは、同じ大学病院と
はいっても内科と歯科の外来棟
は別々になっており、入り口も
まったく違っていました。それ
が二〇一二年、歯科の診療フロ
アが新外来棟六階と四階に移転、
内科と歯科の外来が一本化した
のです。最新設備が整った機能
的なフロアは、パーテーション
で区切られています。診療プ
ースも内科はすべて個室、歯科外
来も半個室や個室対応で、プ
ライバシーに配慮されています。
また内科のなかでも、これま
での内科、外科といったおま
かな区分けではなく、呼吸器内
科と呼吸器外科、消化器内科と
消化器外科を同じフロアにする
など臓器別に配置。確かに、呼
吸器に異常があり呼吸器内科を
受診して、切開となれば呼吸器



エレベーターは明るい色調で、
絵柄は各階異なります。

外科になるわけですから、ひと
繋がりの方が利便性が上がりま
す。そして産婦人科と小児科も
同じフロアにすることで、情報
共有や動きがスムーズに。全体
として患者主体の診療体制にな
りました。
また、これまで各科それぞれに
あった採血や検尿、超音波検査な
どの検査部門も一カ所に集約し、
医療効率もアップしています。
病院は多くの人々が入りす
る場所。そこで病院スタッフと
患者、訪問客などの動線が交わ
らないよう、レイアウトが工夫
されているのです。

わかりやすい受付 スムーズな診察

受付窓口も変わりました。混
雑が少しでも緩和されるよう、
再診患者のための自動再診受付
機や自動支払機がずらりと並び、
待ち時間が短くなったのです。
また再診患者には「外来誘導基
本カード」が発行され、その日
の診療内容が一目でわかります。
携帯電話でカードのQRコード
を読み込めば、診療が近くなる
とお知らせメールが届くサービ
スも一部開始（病院内の特別な
場所以外では携帯電話が使えま
す。コリドールなどでは無線
LANもOK）。

とはいえ、初めての方や高齢
者の方はとまどうこともあるで
しょう。そこで、玄関を入ると
正面に総合案内カウンターを配
置。ここには大学病院を熟知し
ている看護師長経験者など、案
内スタッフが複数名待機。わか
りやすく案内してくれます。
各診察フロアには外待合と中
待合のスペースができ、大きな
外来表示モニターで自分の番号
が表示されるので、診察の順番
を確認できるのです。
玄関横のコリドールは三階ま
での吹き抜け空間。大きなガラ
ス窓で外の光を取り入れ、病院

受付や外来の混雑問題も デジタルとアナログで解決

POINT②
外来が
スムーズに!



吹き抜けのコリドール。

の中とは思えない、ゆったりと
したスペースが広がっています。
ときおり、ミニコンサートなど
も開かれるのだそうです。
病院までのアクセスも改善。

コミュニティバスや無料シャト
ル便を運行、駐車場の混雑緩和
をはかっています。

わからないことがあつたらお気軽にお声をおかけください!



総合案内の大磯久美さん。



2度目からは再診受付機で受付もスムーズに。



見やすい診察順のモニター画面。



総合案内カウンターと受付窓口。

歯科と内科の 外来が一本化 臓器別のフロア構成に



統合された呼吸器内科と呼吸器外科の受付。



小児科と産婦人科は同じフロア。

POINT③
病室を改善

入院患者の生活環境を 快適にする

広くて眺めのいい病室と 食事でもできる談話室

かつて総合病院といえば、大人数の大部屋が普通でした。長崎大学病院でも六人部屋だったのですが、それが四人部屋に。しかも各部屋には洗面台を配置し、八割近くの部屋にトイレを完備しました。またプライバシーに配慮して個室も大幅に増やしています(全病室の三割)。特に入院患者に喜ばれているのが各フロアにある談話室。高台から素晴らしい眺望を楽しみながら、お見舞いの方とのひと時を過ごせます。これまでは自分のベッドで食事をするしかなかった患者さんも、ここに運んで食事ができるようになりました。また、スタッフステーションはオープンカウンターになり、患者とスタッフが顔を合わせてやり取りできるようになりました。

一階と地下にはコンビニやATMのほか、おしゃれなケーキ店、美容客室などが展開し、ちょっとした街のようでもあります。



談話室。夜景もキレイです。



4人部屋。窓が大きく眺めもよい。



大人用紙おむつなど、品ぞろえも特殊なロゾン。

二十四時間使える シミュレータ

大病院の大きな役割の一つとして医療の実践的な教育と研修がありますが、臨床に近い研修現場の質が向上しています。例えば、院内にはベテランの医療スタッフのほかに、多くの研修医や新人看護師がいます。この研修医一人ひとりのデスクが並ぶオフィスと、さまざまな医療用の技術訓練が二十四時間いつでも扱えるシミュレーション室。これらが、今回の改革で、医療教育開発センター内に整備されました。新しくできる新中央診療棟にも、最新シミュレータが設置され、研修医の宿泊用個室などが整備される予定です。また、院内には医学生のため二つの大きな講義室も完備し、教育機能を一角に集中させました。

POINT④
研修施設の
整備

研修医や看護師のための 学びの空間を確保



研修医たちのオフィス。



200名収容できる講義室。



24時間使えるシミュレーション室。

長崎大学病院だからできる 最前線の医療

POINT⑤
国際医療
センター
開設

スキルを磨いて 「現場に強い」医療人に

外部からは見えにくいのですが、敷地の最奥部には、二〇一一年国際医療センターが完成しました。これは救命救急医療、感染症医療、緊急被ばく医療の三本柱で構成されています。

特に一番受け入れが多いのが救命救急センター。発足から三年、体制も整い、現在フル稼働です。救急医療には、軽症患者への一次救急から生命の危機に関わる三次救急までありますが、大学病院が扱うのは、より高度な治療が必要な三次救急の重症患者。そこで搬送から処置室や集中治療室、病室までの動線を確保し、治療や看護を速やかに行います。特に脳卒中と外傷は、専門スタッフが集中して治療にあたっています。

また、感染症医療に関しても、感染症病床、結核病床などに加え、県内唯一の第一種感染症病床を整え、安全で早急に治療できる医療環境を実現しています。

緊急被ばく医療では、県内の被ばく事故に備える役割のみならず、二〇一一年の福島での原発事故の折には、大学病院の医療スタッフが現地入りし、今も医療支援を行っています。

この国際医療センターを作ったことで、若手の医療関係者が、高度な救命救急や、より多くの臨床現場を経験し、専門の知識や技術を磨いて「現場に強い」医療人に成長していくのではないかと期待されています。



救命患者の病室には心電図などが一目でチェックできるモニターがついています。



救急救命センターのスタッフステーション。



救命救急センター初療室にて治療にあたるスタッフ。



甲状腺線量測定の様子。

